

③創業・起業、新事業開拓、成長支援

本支店一体となった成長可能性の高い事業者への成長支援

(大東銀行)

【概要】

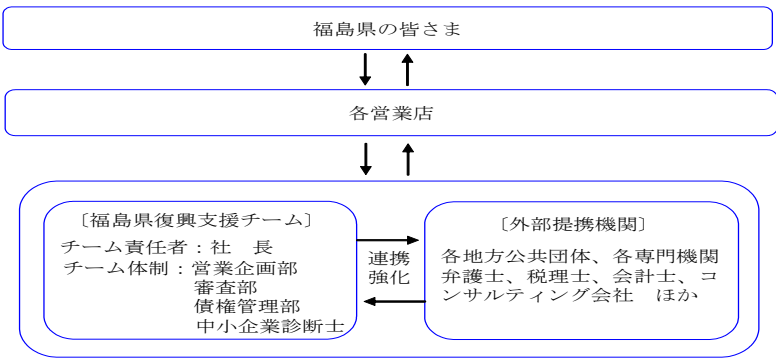
「福島県復興支援チーム」を設置し、被災企業に対してスピーディーかつタイムリーな融資を実行。

背景と経緯

東日本大震災以降、福島県においては、復旧・復興が進む中、中小企業に対する様々な支援、成長・育成、経営改善、融資を積極的に進め、地元経済や取引先企業の成長につながる取組みが求められている。

事業者からの相談に対して、方向性をスピーディーに決定するため、「福島県復興支援チーム」を設置し、各部横断的な体制とするとともに、外部専門機関等との連携強化を行い、専門的な支援体制を整備した。

【体制図】



具体的な取組

《営業店と福島県復興支援チームが一体となり、取引先企業の設備投資ニーズを把握し、企業の成長可能性を踏まえ、当行の貸出限度額を超えて融資に取り組んだ事例》

営業店において、顧客ニーズやお悩み事の収集と対応を目的に、取引先企業全先に対し訪問活動を展開していたところ、以下の情報を入手した。

A社は、取引歴20年となる当行メイン取引先の製造業者（HV自動車の電池パック製造および安全性試験装置を製造）である。A社の得意先は、電気・電池メーカーやトヨタ自動車を主力とした自動車メーカー等であるが、東日本大震災による工場のダメージは相当なものであった。

一方、「電気自動車」「ハイブリッド車」に対するニーズの高まりが非常に大きいことから、生産能力の増強を検討していた。

「福島県復興支援チーム」は、取引先企業の成長可能性を重視し、取締役会の決議により貸出額のリミットを超えて融資をするなど、取引先企業の成長・経営改善に積極的に取組み、県内復興支援を進めていくことは被災地金融機関の責務であると考え、当社に対する支援の方向性をスピーディーに決定した。

その結果、ふくしま産業復興企業立地補助金制度を活用するためのつなぎ資金を実行し、メイン行として5行協調による融資につなげ、新社屋建設に取り組んだ。

取組の成果

電気自動車やハイブリッド車に対するニーズが引き続き増加しており、A社は生産能力の増強により売上が大幅に増加した。その勢いは衰えず、今期も増収増益を見込んでいる。

また、A社は「将来の技術者育成支援」を積極的に実施している。県内の工業高校生を対象に、工場見学や水素自動車の試乗を通して、世界レベルの日本の技術を身近に感じさせることにより「夢や希望」を与え、将来に向けて優秀な技術者の創出を実施している。この事業は福島県のみならず、地域からも大きな支持を得ており、被災県として若者人口の流出に歯止めがかからない現状の打開策のひとつとして、厚い信頼と期待を受けている施策となっている。

当行においても、地域を代表するメイン企業に対し、「タイムリーな訪問活動」→「情報収集」→「本支店一体となったスピーディーな方向性の決定」→「融資の実行」ができたことは「福島県復興支援チーム」の好事例であると考えている。

今後の課題

今後も、継続的かつスピーディーな支援をしていくことのみならず、幅広で、専門的な知見が必要となる当社からのニーズに対応していくためにも「目利き力の醸成」が不可欠であると認識している。

また、融資によるサポートに偏らない、様々なソリューション対応や顧客の目線に則した仮説提案を実施し、当行が永続的にメイン行の座を維持していくことが、一番の課題であると認識している。



Point | 支援実施のポイント／横展開にあたっての示唆

支援実施のポイント① スピーディーな方向性の決定

支援実施のポイント② 多様な顧客ニーズへの対応

支援実施のポイント③ 幅広い目利き能力の醸成